

・児童に新聞を活用した授業を展開することにより、地域や社会の中で課題を見つけ、解決のために行動する力を育むこと、膨大な情報が行き交うネット社会で正しく情報を取捨選択し読み解く力、活用していく力であるメディアリテラシーを身につけさせることを主な目的としていることが分かった。

ネットなどと異なり、網羅性・一覧性があり、信頼性の高い新聞を活用することで、社会の関心を高め、自分ごととして考えを深め、主体性や問題解決能力も育てていけるのではないかと考えた。自分たちが暮らす社会ではどんなことが起こっているのか知らなければ私たちは生きていけない。社会をより良くし、暮らしを豊かにするためには、日頃から社会に関心を向け、批判的に考え行動することが大切である。

私たち人間はAIの普及により次第にスマホ脳に陥っていることが考えられる。わからないことは自分で考えることなくすぐにネットで検索する癖がつく。これにより考えることをしなくなり、脳が「考える」ことをサボり始める。そのネットの情報の信頼性や妥当性が明確でないままその情報を信じてしまう。私たちはこのような現状や将来の可能性に危機感を持つ必要がある。

そこで、正しい情報が書かれている新聞と、ネットで書かれている情報を読み比べてみてどこが共通しているのか、どこが違うのか実際に児童に考えてもらうことで、情報の捉え方や新聞の重要性に気づき、理解できるのではないかと考える。

しかし、現在新聞を読んでいる若者はたいへん少なく、新聞が今後の社会に残り続けるかどうかはわからない。それでも、新聞とネットの情報を比べてみることで正しい情報の収集の仕方や、情報の扱い方なども学んでほしいと感じる。また、ニュースなどから自分の考えを持ち、様々な人と意見交流を行うことで、新たな視点に気がついたり、自分の考えを再構築することができる。このように、考えることをやめさせてはいけない。

・新聞を活用した社会科の授業は、子どもたちが現実社会と学びを結びつけて考えるのに効果的な方法であると考えます。新聞は日々の出来事を多角的な視点から報道しており、児童・生徒が社会の動きをリアルタイムで学ぶことができる貴重な教材となります。

新聞記事はなるべく新しいものを使い、時事問題への興味関心を引き出すだけにとどまらず、情報を読み取り、考察する力を養う教材としても優れているのではないかと考えます。例えば、地域のニュース記事を

使って意見交換を行うと地域社会への関心を高め、地域の課題や将来について主体的に考える機会を提供することができます。

また、環境問題の記事を扱えば、環境問題に関心を持ちながら、その原因や解決策について多面的に考察し、持続可能な社会の実現に向けて自分たちにできることを考えるテーマ学習として深い学びを展開できると考えています。

一方で、新聞を教材として活用する際には、内容の難しさや偏りのある情報といった課題も存在すると考えられます。児童・生徒の理解度に合わせた慎重な選択が必要です。そのため、低学年には平易な言葉で書かれた子ども向け新聞（子ども新聞）を活用し、高学年においても理解しやすい記事を選ぶといった教材研究の時から学年に応じた配慮、工夫が必要だと感じています。

さらに、記事の選定においては、児童・生徒の発達段階や興味関心を考慮しながら、社会への理解を深められるような内容を選ぶことが重要だと考えます。新聞とインターネットや映像資料を併用することで、より公平な視点から情報を処理する力を養うこともできます。また、教師が背景知識を深め、適切な発問や記事の選定を行うことによって、児童が主体的に学び、活発な意見交換ができる授業を展開できます。このように新聞を活用することで、児童は社会への関心を高めながら、自身の考えを整理する力を育むことができると考えます。

・新聞を活用した授業となると新聞の内容を理解し、その内容について話し合いや考察を行うことが授業展開だと考えていたため授業内、ましてや1時間の中で新聞を活用することはできないのではないかと考えていた。しかし、今回の活動を通して新聞の活用方法は内容理解や社会について考えるためだけではない事を知る事ができた。

もちろん、新聞の本来の用途で用いることも大切だが、どの学年に対しても同じ授業の仕方はできないので長いスパンで新聞を用いた授業を行う上でも低学年には新聞に慣れたり興味を持ってもらえるような授業展開が必要であると考えます。

また私は新聞の利便性や良い所を児童に知ってもらうためにも社会科の授業で扱うだけではなく社会科の基盤になる生活科の授業でも取り扱っていく必要があると考える。社会科の授業から新聞を活用しようとするとしても学習的な要素を取り入れないといけないため「新聞は難しい、堅苦しい、読むのに疲れる」などの否定的な印象を持ちやすいのではないかと考える。なので知識的な学習を中心としている社会科から

ではなく、日常生活を中心としている生活科から新聞を用いて講義でも上がっていたような文字探しやスリッパ作りなどを行うことで新聞に対する興味や良い印象を持ちやすくなるのではないかと考える。そのためには、社会科だけで新聞を活用した授業展開を考えるのではなく生活科と協力して学年を超えた授業づくりを行う必要があるのではないかと考える。

また、SNS が普及している現状で家庭で新聞を読まないところが増えているため新聞の読み方や新聞について知らない児童もいるのではないかと考える。そのような児童にとっては新聞の読み方や構成を教える必要があると思うので実際に児童がインタビューを行い、新聞を作ると言う活動は新聞に興味を持てるだけでなく、新聞の用途についても学ぶ事ができるのでとても有効的な授業内容であると感じた。